

# 秋元湖と磐梯山

## 火山湖の歴史に刻まれた災禍と発展の歩み

National  
Parks  
of Japan



秋元湖は 1888 年の磐梯山噴火により川が土砂で堰き止められて生まれた堰止湖で、湖底には開墾地であった「秋元原」の集落が沈んでいます。かつて、この地の周辺では炭焼きや山仕事が進んで行われ、湖畔の道や水辺は人々の生活と往来を支える場でもありました。

明治から大正、昭和にかけては、猪苗代湖や裏磐梯の湖沼を利用した水力発電が発展し、のちに秋元湖にも大規模な発電施設が整備されました。ここで生み出された電気は主に首都圏で使われ、日本の近代化や高度成長を支える力となりました。

現在では、キャンプや釣り、カヤックなどの水辺のレジャーも親しまれ、湖は豊かな自然と暮らしが交差する場となっています。噴火で生まれた湖と、そこに寄り添いながら営まれてきた人々の暮らしが重なりあいながら、秋元湖の歴史が紡がれてきました。

出典：会津若松市デジタルアーカイブ [ 画像 (上) ]



特別保護地区 特別地域 普通地域 JR 私鉄 高速道路 観光道路